広島民報

2019年 8月4日 第2538号
月3回刊
日曜日発行

発行所 広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11／電話(082)228-4046
(昭和41年2月19日第三種郵便物認可)
1ヵ月 240円(送料123円)／1部 80円
郵便振替 01330-2-34778

© 広島民報社 2019年

原水爆禁止2019世界大会
核禁条約に調印する日本を

原水爆禁止2019年世界大会が迫りました。核兵器廃絶、非核平和へと世界を動かす世界大会への期待が大きく高まっています。

オーストリアのゲオルゲビルヘルム・ガルホーファー欧州統合外務省公使から、広島の国際会議から長崎まで6日間、世界大会に参加すると連絡があり、核兵器禁止条約を採択へと主導した中心国であるオーストリア政府が、世界大会を重視していることが分かります。画期的な「原水爆禁止世界大会・ニューヨーク」開催を提唱しているジョゼフ・ガーソン、ライナー・ブラウンの両氏も国際会議から参加します。

また、初めてNATO加盟国スペインの左翼政党「ポデモス」の国会議員の大会参加も決まりました。5月の日韓国際フォーラムでつながった韓国の労働組合、女性団体、青年が多数参加します。

広島県入りした国民平和大行進（東京―広島コース）の行進団＝7月26日、福山市

また、被爆国日本の役割を果たすためにも、世界大会の成功は決定的に重要です。日本政府は、唯一の被爆国でありながら核兵器禁止条約に背を向け続け、被爆者・国民を裏切っています。7月の参院選では、安倍9条改憲阻止、安保法制＝戦争法廃止、沖縄の米軍新基地建設中止などを共通政策にかかげて32の一人区で野党統一候補が奮闘し、10人が勝利しました。3つの一人区では「核兵器禁止条約の調印・批准を求める」ことが公約に掲げられました。

世界大会は、参院選のたたかいを発展させ、核兵器禁止条約に調印・批准する日本をめざして、国民の運動を総結集する場です。大会には、オール沖縄会議の稲嶺進共同代表、市民連合・「学者の会」よびかけ人の広渡清吾さん、原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟代表の吉原毅さんが参加します。

今年で62回目の国民平和大行進は、東京―広島コースが7月26日に県内入りして福山市に引き継がれ、8月4日に広島市中区の平和記念公園に集結。5日の「被爆者訪問」の成功をめざす県原水協の青年の取り組みも進んでいます。

日本共産党広島県委員会は各支部に「世界大会へ代表を」の呼びかけを強めています。県原水協と加盟団体は「ヒバクシャ国際署名」と世界大会の代表派遣を広げようと奮闘しています。

碑前で営まれた慰霊祭＝7月27日、広島市西区

被爆74周年の原爆の日
県内各地で追悼の式典

被爆74周年の8月6日の原爆の日が近づき、死没者を慰霊、追悼する式典が県内各地で開かれています。

広島市西区の福島地区原爆犠牲者慰霊之碑前では7月27日、第44回慰霊祭が営まれ、30人が参列。碑には「天を抱くがごとく両手をさしのべし死体のなかにまだ生きるあり」と深川宗俊氏の碑文が刻まれ、423人が合祀されています。

安芸区の瀬野川地区原爆死没者追悼碑前では7月26日、第26回追悼式があり、新日本婦人の会広島県本部が毎年発行している被爆体験手記集『木の葉のように焼かれて』に掲載された被爆者の証言が朗読されました。

比例中国 大平よしのぶ 奮戦記

参議院選挙が終わりました。何より中国地方にとっての宝、仁比聡平さんの議席を失ってしまったことが本当に悔しくてなりません。私自身が直接ともに活動してきたこの6年間の奮闘ぶりを振り返っても、政権・与党がもっとも恐れる議員の一人であり、絶対に欠かすことのできない存在であったと肌身で痛感してきただけに、この結果は痛恨の極みです。安倍暴走政治の下で今こそ国民の暮らしを守るがんばりをすべきこの時に、中国地方で主に活動する国会議員がいなくなってしまったこの事態が本当に申し訳なく、一刻も早く取り返していくためのその責任を自覚し、ただちに再スタートを踏み出していきます。

参院選で健闘した高見選挙区候補(右)とともに宣伝する大平前衆院議員＝7月22日、広島市

総選挙で議席奪還を

まず全体の結果として、改憲勢力の「3分の2」を阻止したこと、1人区の10の選挙区で野党統一候補が勝利したこと、私たちの比例票は17年総選挙比で前進させたことなどをしっかりと確信に。さらに、中国地方でも山陰で中林よし子さんが全国でも大きな注目となる野党統一候補としてがんばりぬかれ、両県の党組織が全力で支え新しい挑戦にも大いにとりくまれたこと、広島で高見あつみさんが難しい条件の中でも果敢にたたかいぬかれたこと、住寄さとみさんが党を語る先頭に立って元気いっぱいに中国地方一円をかけぬかれたこと、何より党員・後援会員の皆さんの猛暑と大雨に負けずの大奮闘―そのすべてのがんばりの結果として、中国地方すべての県が17年比で比例得票率を前進させることができました。そのことは来たるべき総選挙で議席奪還を勝ち取る上での重要な足がかりとなるに違いありません。

まもなく74回目の8月6日をむかえます。この選挙の最終盤、ある被爆者の方が炎天下の中でマイクを握ってくださいました。「安倍総理は私たちの目の前で『核兵器禁止条約に署名はしない』と言った。これが被爆国の総理か！ 共産党にがんばってもらうしかない」。なんとしてもこの期待にこたえ、必ず議席奪還をはたさねば。

地下水

原爆投下から75年を迎える来年、核兵器禁止条約の発効が見込まれ、人類の新しい歴史が始まろうとしています。新日本婦人の会の五つの目的の一つ「核戦争の危険から女性と子どもの生命を守ります」の実現の展望が開けます◆画家・岩崎ちひろは「わたくしたち婦人は、誰でもみじめな戦争に子どもや夫をさらしたくないとかたく考え、（中略）わたくしたち婦人の平和への願いは決して夢ではないのです」の一言が心にかなって、新婦人創立の呼びかけ人に名を連ねたそうです◆岩崎ちひろは、心にそまない結婚相手と当時の「満州」に渡り、結婚生活に破れ帰国、敗戦後の日本で自らの生き方を模索、平和への希求を画家として表現しました◆画家として、大家族の主婦として、国会議員松本善明の妻として、日本共産党員として「しんぶん赤旗」の配達活動にも参加しました◆岩崎ちひろの青春をえがいた演劇「ちひろ」が10月、広島市で上演されます。「ちひろ」の青春に出会って、核兵器廃絶の力をもらいましょう。（O）